

メモリがーか所に集中
 UMA(Uniform memory access model)
 いわゆるマルチコア

メモリが分散
 NUMA(Non-Uniform memory access model)

図1集中共有メモリと分散共有メモリ

図2 キャッシュの制御 (Node 3読み出し)

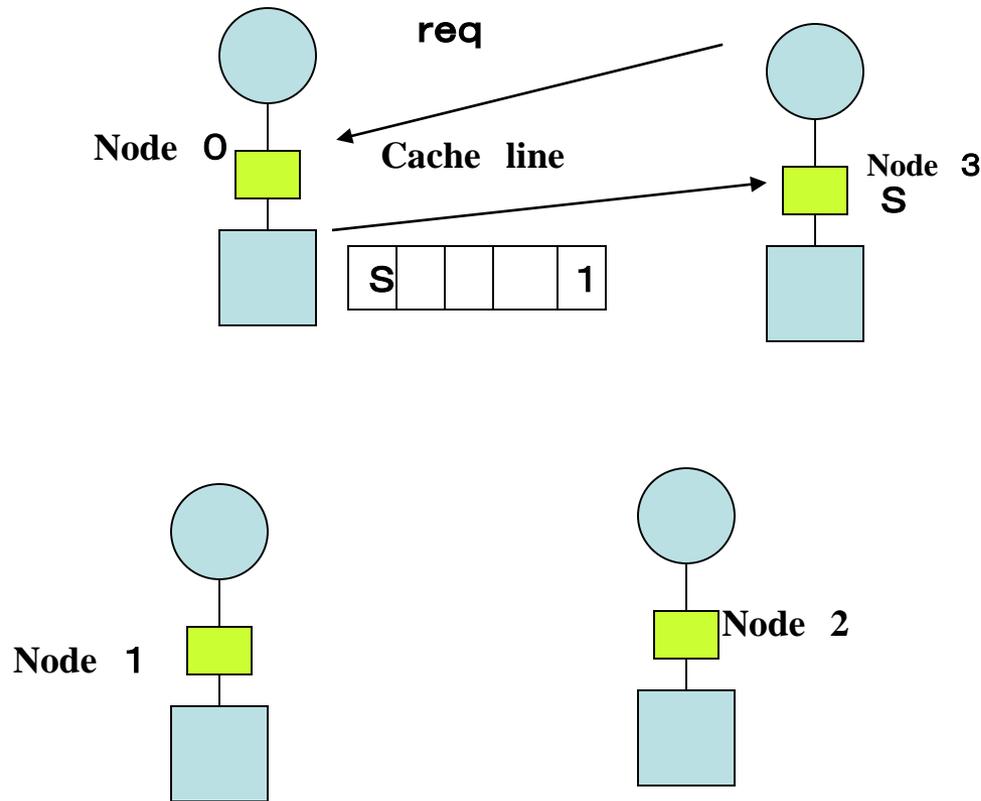


図3 キャッシュの制御 (Node 1 読み出し)

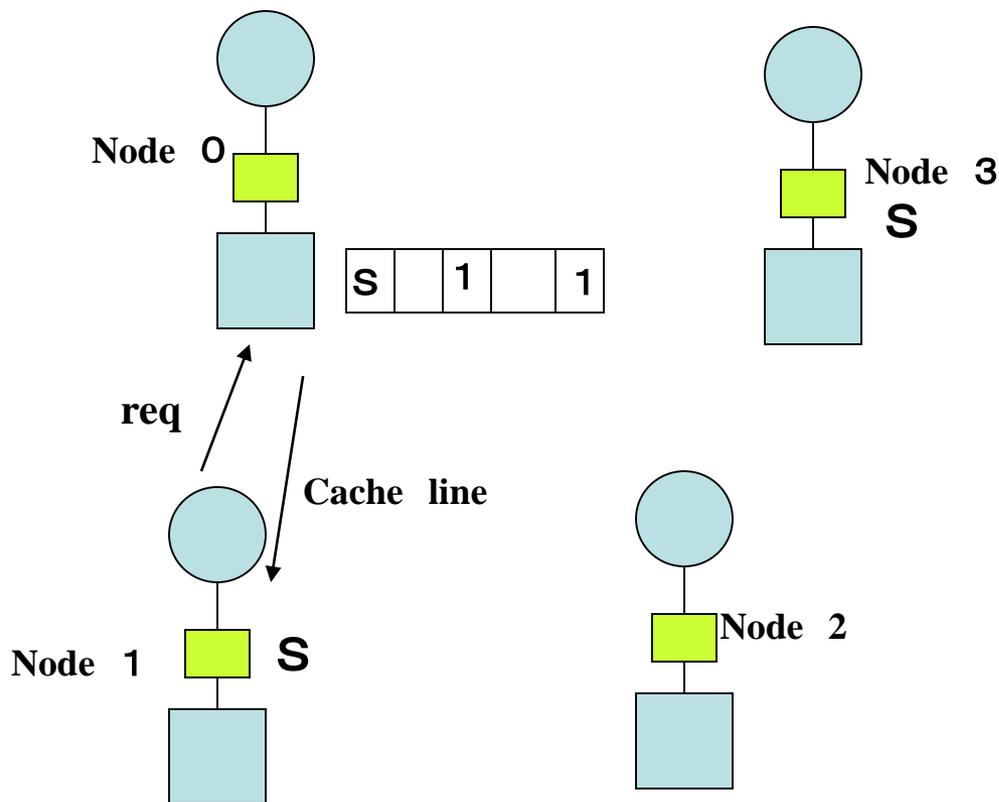


図4 キャッシュの制御 (Node 3 書込み)

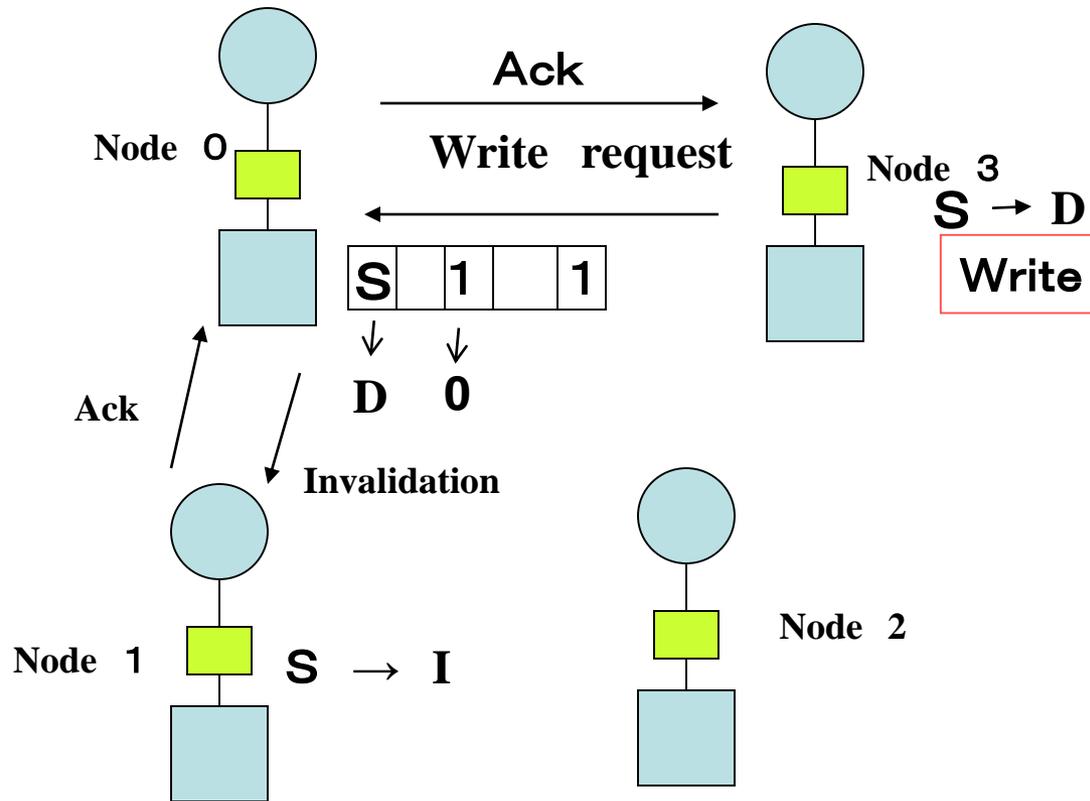


図5 キャッシュの制御 (Node 2読み出し)

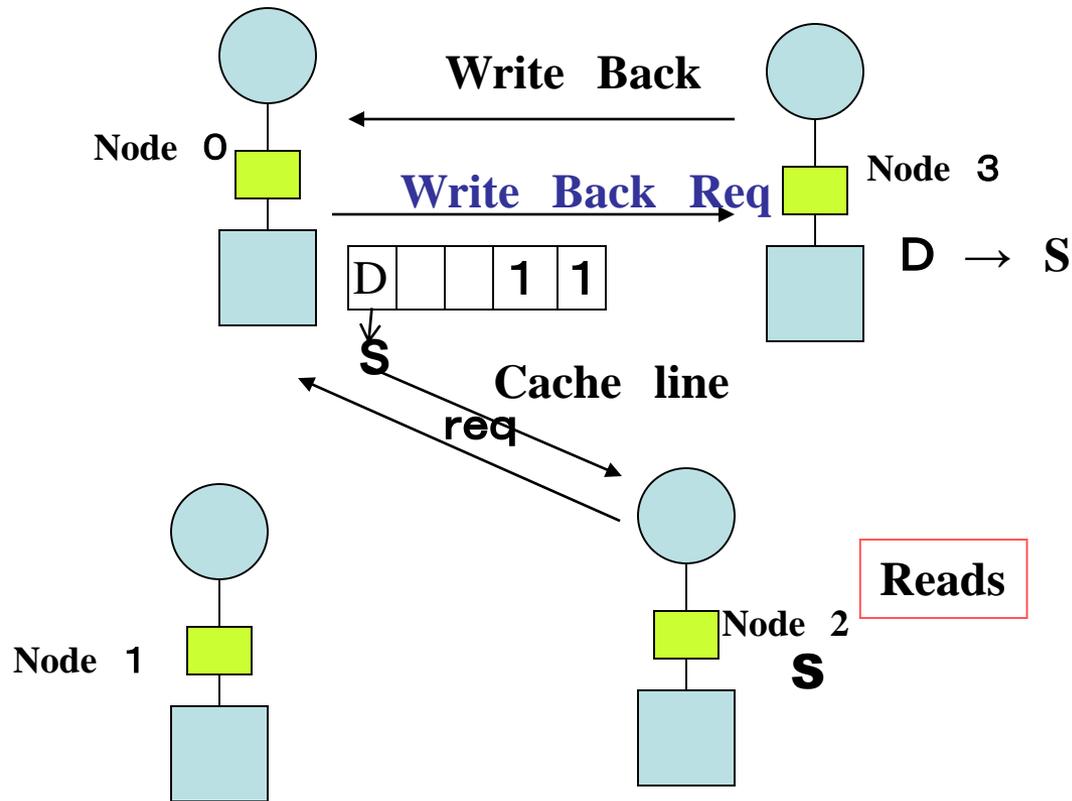


図6 キャッシュの制御 (Node 2書込み)

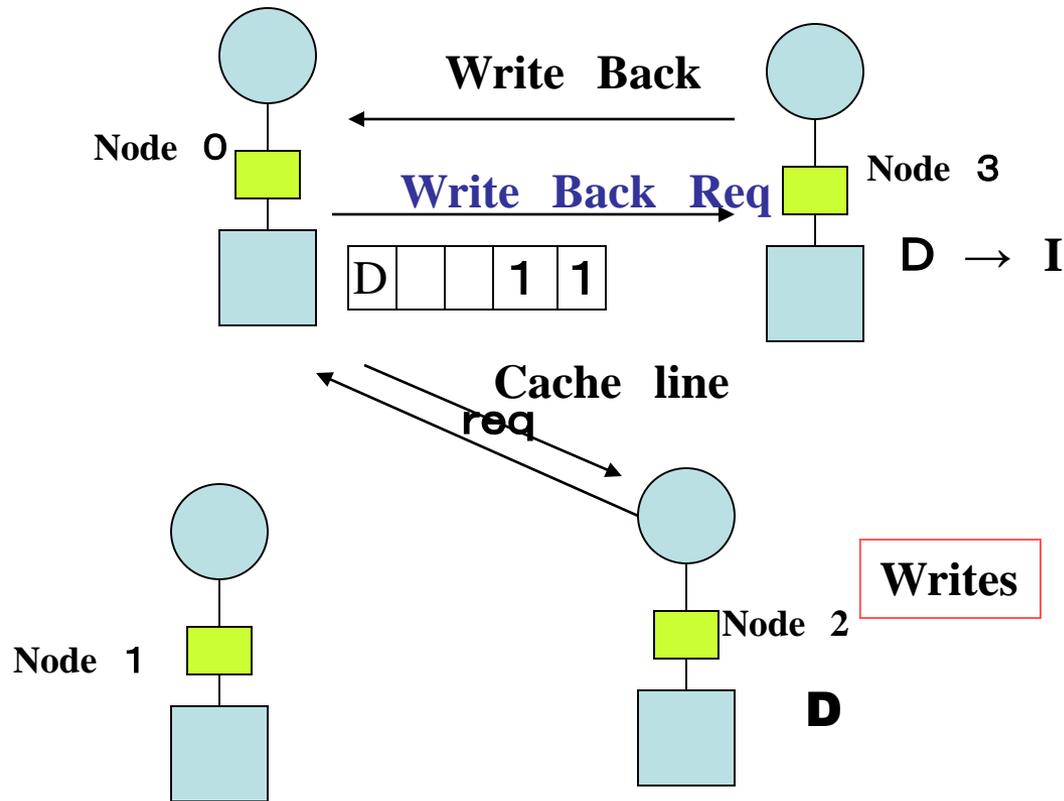
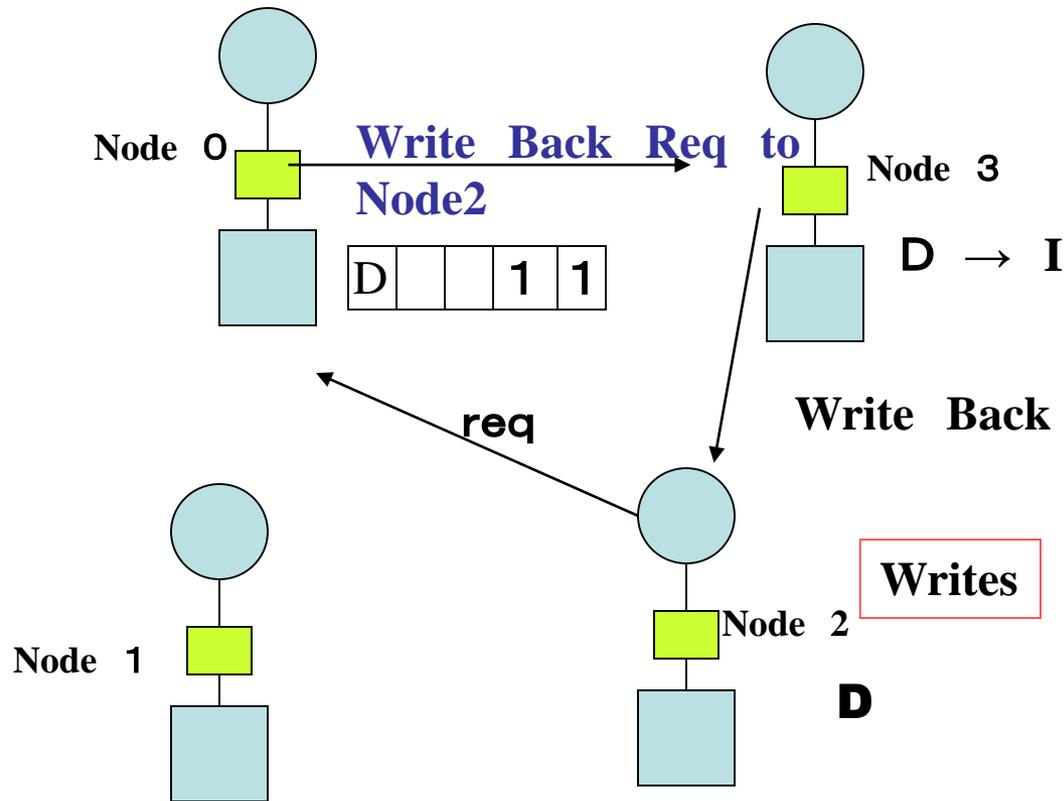
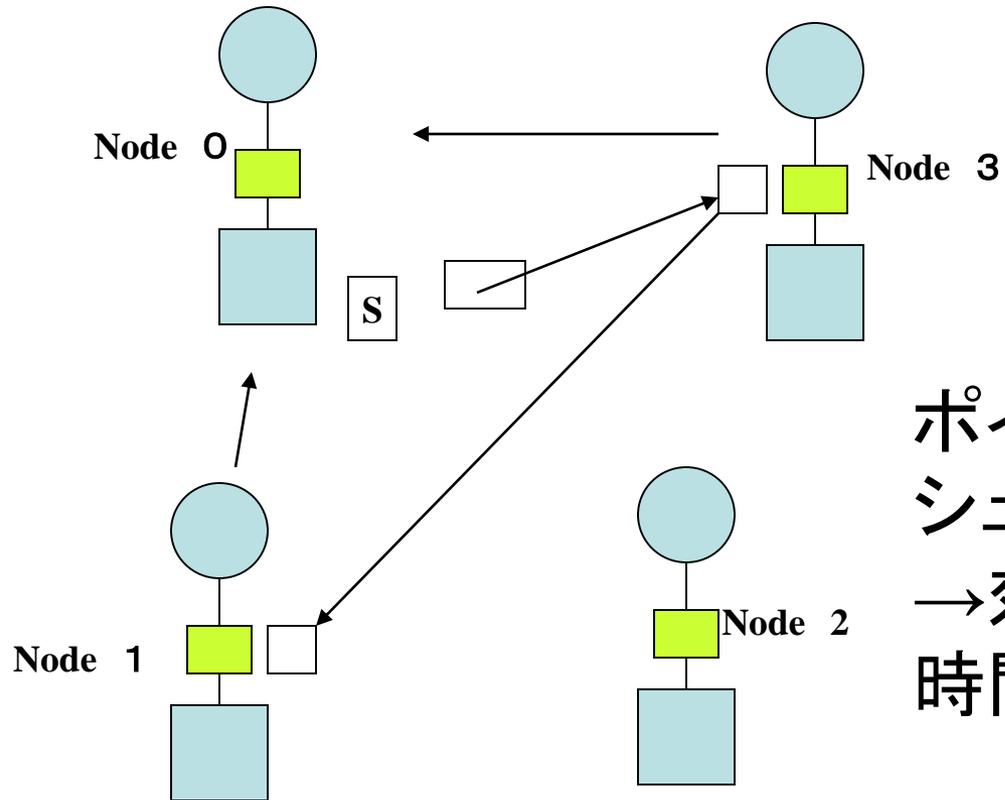


図7 キャッシュ間直接転送



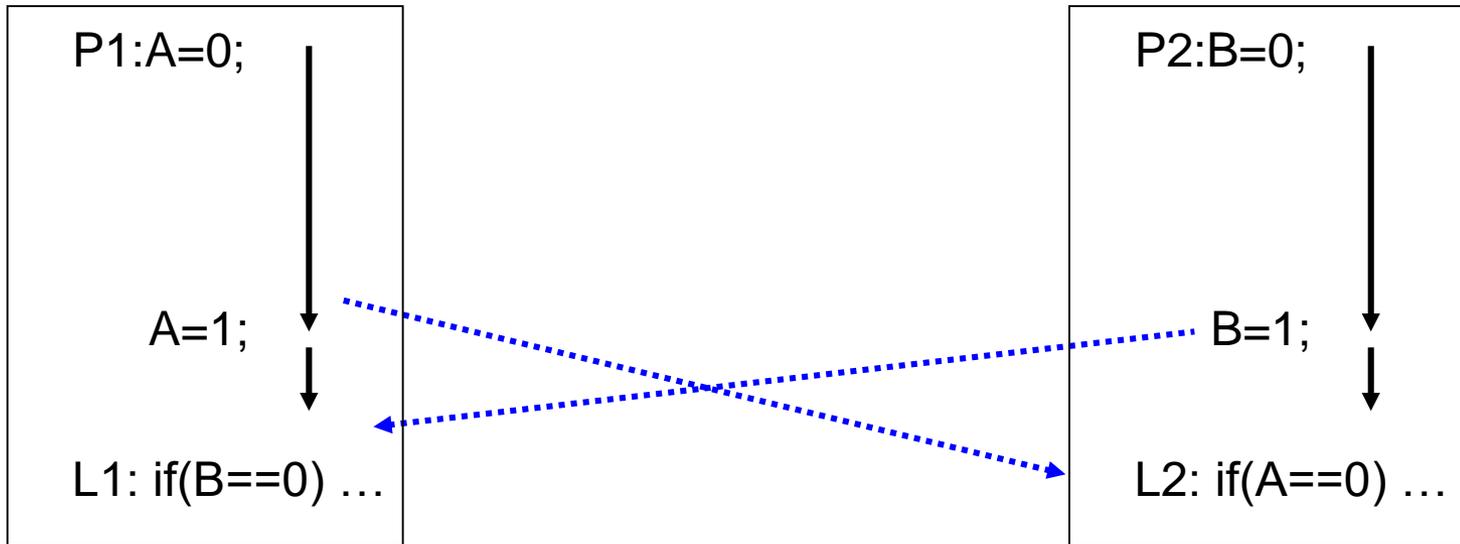
Dのキャッシュが要求元に直接データを送る

図8 キャッシュ間のリンクを構築



ポインタをキャッシュ上の置ける
→効率が良い
時間が掛かる

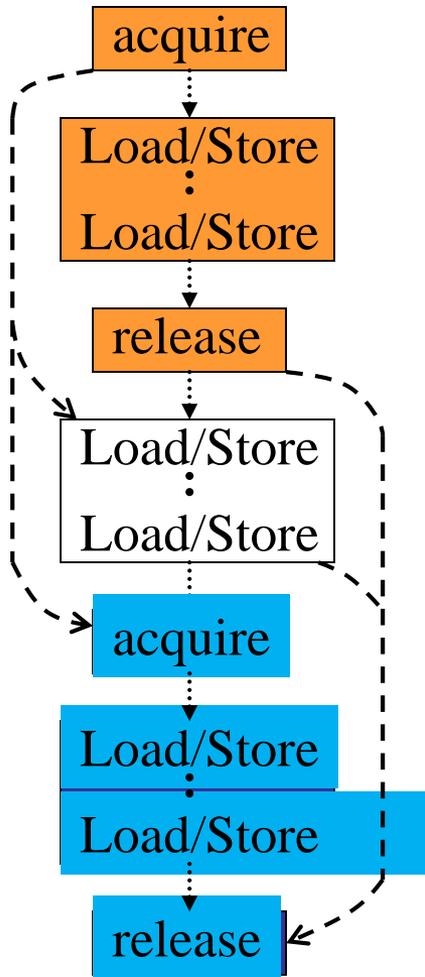
図9 シーケンシャルコンシステンシー



L1 とL2 が同時に実行され**ないこと**

これを実現するためには書いた値が即座に読み出すことが
できなければならない

図10 リリースコンシステンシー



・クリティカルセクション間の並行実行が可能

